早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
3372-2

学位論文
3372
2

博士（人間科学）学位論文　概要書

子育てをめぐる住環境に関する環境心理学的研究

－乳幼児をもつ母親を対象として－

Environmental Psychological Analysis of Child-rearing Environment

- Study of mothers with infants -

２００３年１月

早稲田大学大学院　人間科学研究科

松本　聡子

Matsumoto, Satoko

研究指導教員：　野嶋　栄一郎　教授

本論文は，乳幼児を持つ母親を対象として行った，子育てをめぐる住環境の環境心理学的研究について報告しており，6章から構成されている．

第 1 章では，環境と人間との関係を説明する環境心理学的なモデルを提示し，住環境と人間との関係について関連研究の概説を行っている．そして，Conger et al.（1992）などによる住環境と子どもの関係における介在要因としての母親の重要性についての指摘をふまえ，子育てをめぐる住環境の状態から母親へ，そして子どもへとつながる影響関係を表す一連の因果プロセスを，仮説モデルとして想定することの理論的な根拠を述べている．そこで本研究の目的を，上述の段階的な因果モデルを検証すること，そして子育てのしやすい環境について検討することとし，以下の章で分析・考察を行っている．

本研究では，2回の調査から得られたデータを用いて分析を行っている．両調査とも子育てをめぐる住環境や育児に関する質問紙調査を，子育て中の母親を対象に行ったものである．1998 年度調査は，東京都および埼玉県在住の母親（N=653），2000 年度調査は，東京都および千葉県在住の母親（N=1081）を対象とした．子育てをめぐる住環境について，1998 年度調査では困りごとの数によって，2000 年度調査では各側面に対する評価によって把握した．

第 2 章では，子育てをめぐる住環境に対する母親の評価について検討した．その結果，子育てをめぐる住環境に対する評価は全体的としては高いが，住居内の空間に関する問題，近隣環境の快適性，子育てに重要と思われる住居周辺環境に対する評価が相対的に低いことが示された．

第 3 章では，子育てをめぐる住環境と母親の健康状態との関係性を検討した．その結果，母親の精神的健康状態の住居特性による違いは，本研究のデータでは見られなかった．また，子育てをめぐる住環境に対する評価の低さと母親の精神的な健康状態の悪さは，正の相関関係にあることが示された．さらに，重回帰分析により母親の精神的な健康状態に対して影響を及ぼしている住環境の側面について検討した．その結果，スペースに関わる問題，隣近所への音漏れに対する気遣い，隣人関係，地域の子育てサポートの体制といった側面に不満を感じているほど，母親の精神的な健康状態は悪くなることが示された．

第 4 章では，第 3 章で示された子育てをめぐる住環境⇒母親の精神的健康度というプロセスの次段階として，母親が子育てに対して抱いている意識を設定し，その妥当性を検討した．共分散構造分析によりモデルの検証を行った結果，子育てをめぐる住環境に対する

母親の不満・困りごとは，母親の精神的な健康度を低下させることによって子育てに対する否定的な意識を強めていることが示された．

第 5 章では，子育てをめぐる住環境⇒母親の精神的健康度⇒子育てに対する否定的な意識というプロセスが，母親の子どもに対する態度から子どもへと続いていく段階的なモデルの妥当性を検討した．その結果，住環境の影響は母親の精神的健康度や子育てに対する否定的な意識を介して，母親と子どもとの関係性（養育態度）に影響を及ぼしていることが示された．また，住居周辺環境要因（治安，交通面での安全性，駅への近さ）は，直接子育てに対する否定的な意識に影響を及ぼしていることが示された．さらに，一部のデータを用いて，子どもの行動特徴（衝動的・非統制的な行動特徴と依存的な行動特徴）を最終従属変数とし，子育てをめぐる住環境⇒母親⇒子どもという因果モデルの検証を行った．その結果，衝動的・非統制的な行動特徴と依存的な行動特徴では異なる部分もあるが，基本的なプロセスについては，仮定した因果モデルの妥当性が確認された．

第 6 章では，本研究の問題点，展望などを含め，本論文を総括し，主な結論として以下の 3 点を提示した．第一に，子育てをめぐる住環境に対する母親の評価は全体としては高いが，住居内のスペースの問題，近隣環境の快適性，子育てに重要と思われる住居周辺環境の側面に対する評価は低い．第二に，住居内のスペースの問題，音漏れ，隣人関係，子育てのサポート体制，治安，交通面での安全性，駅への近さといった住環境の側面は，母親の精神的な健康度や子育てに対する意識に影響を及ぼしており，子育てしやすい住環境の条件として重要な側面である．第三に，住環境は母親の状態を介して，子どもの行動特徴に対して部分的な影響を与えうる．以上のことから，住環境が子どもに及ぼす影響を，母親が介在する一連のプロセスとして構造化し，提示することができたと言えるだろう．本研究により，住宅計画や都市計画の段階から，育てる側の視点も含めることが必要かつ有効であることが示されたことは，子どもの発達のために望ましい住環境整備を考える際の重要な前提を提供したと考えられる．